

科目名	作業療法評価学演習						
科目名(英)	Introduction to OT Assessment ; Practice						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松田 茂		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	病院において 作業療法士として勤務		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	1. リハビリテーション医療の中での作業療法評価の目的と流れを理解する。2. 評価法の種類と方法を知る。3. 評価結果の意味するものを学ぶ。4. 収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○	○			各評価を実施できるようになる	
	○	○				評価結果の意味するものを説明できる	
	○	○	○	○		収集した情報より全体像把握・ゴール設定・プログラム立案へと結びつける事が出来る	
テキスト・教材 参考図書	1. 標準作業療法学 作業療法評価学 2. 神経診察クローズアップ 3. 標準作業療法学 作業療法評価学知覚をみる・いかす 4. ICF 国際生活機能分類 5. ICFの理解と活用 6. 標準作業療法学 臨床実習とケーススタディ						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	オリエンテーション 面接・観察・記録			行った評価法の復習		
	2	反射検査 脳神経検査			行った評価法の復習		
	3	感覚検査			行った評価法の復習		
	4	筋緊張・協調性検査 上肢機能検査			行った評価法の復習		
	5	意識状態の評価 動作分析			行った評価法の復習		
	6	摂食嚥下機能検査 呼吸機能検査			行った評価法の復習		
	7	心電図のみかた ケーススタディのオリエンテーション			行った評価法の復習		
	8	ケーススタディ			担当するケースについてグループで再学習		
	9	ケーススタディ			情報収集、プログラム作成		
	10	ケーススタディ			情報収集、プログラム作成		
	11	ケーススタディ			情報収集、プログラム作成		
	12	ケーススタディ			情報収集、プログラム作成		
	13	ケーススタディ			発表の準備		
	14	発表					
15	後期の振り返り						
評価方法	(1)実技レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				50%
	実技レポート	◎	◎	○	◎		50%
履修上の注意							

科目名	身体障害作業療法学演習						
科目名(英)	OT for Physical Dysfunction ; Practice						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	老川 良輔		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	この授業は、実際作業療法を行う上で何がクライアントにとって必要なことかを考える授業である。その為には基礎医学、臨床医学、作業療法理論、基礎作業学実習、作業療法評価学を統合する必要がある。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				身体障害の概念を理解する。	
	○	○				身体障害に対する作業療法の考え・役割・流れを理解する。	
	○	○				作業療法の対象となる代表的な疾患について理解する。	
	○	○				様々な疾患と障害に対する作業療法の具体的方法を理解する。	
テキスト・教材 参考図書	①ゴールドマスターテキスト身体障害作業療法学(MEDICAL VIEW) ②身体障害領域の作業療法(中央法規) ③図解 作業療法技術ガイド(文光堂) ④病気が見える vol.7 脳・神経(メディックメディア) ⑤オリジナルテキスト						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	【疾患別】各論 頭部外傷(臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 脊髄損傷①(疫学・分類・障害像)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	2	【疾患別】各論 脊髄損傷②(疫学・分類・障害像) 【疾患別】各論 脊髄損傷③(作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと 頭部外傷の小テストを行うため、準備をすること		
	3	【疾患別】各論 脊髄損傷④(作業療法) 【疾患別】各論 脊髄損傷⑤(作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	4	【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病②(病態と臨床像)			まとめプリントを使用して復習しておくこと 脊髄損傷の小テストを行うため、準備をすること		
	5	【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病③(作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【1】パーキンソン病④(作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	6	【疾患別】各論 神経・筋の異常【2】筋萎縮性側索硬化症(臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【3】脊髄小脳変性症(臨床像と作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと パーキンソン病の小テストを行うため、準備をすること		
	7	【疾患別】各論 神経・筋の異常【4】多発性硬化症(臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 神経・筋の異常【5】ギランバレー症候群(臨床像と作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと 中間試験:第1回~6回の内容の準備を行うこと		
	8	【疾患別】各論 関節リウマチ①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 関節リウマチ②(病態と臨床像)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	9	【疾患別】各論 関節リウマチ③(作業療法) 【疾患別】各論 関節リウマチ④(作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	10	【疾患別】各論 手の末梢神経損傷①(病態と臨床像) 【疾患別】各論 手の末梢神経損傷②(病態と臨床像)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	11	【疾患別】各論 手の末梢神経損傷③(作業療法) 【疾患別】各論 手の末梢神経損傷④(作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	12	【疾患別】各論 骨折①(総論) 【疾患別】各論 骨折②(総論)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	13	【疾患別】各論 骨折③(上肢:橈骨遠位端骨折の臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 骨折④(下肢:大腿骨頸部骨折の臨床像と作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと		
	14	【疾患別】各論 内部障害①(心疾患の臨床像と作業療法) 【疾患別】各論 内部障害②(呼吸器疾患の臨床像と作業療法)			まとめプリントを使用して復習しておくこと 定期試験:第7回~14回の内容の準備を行うこと		
15	中間試験(6回まで終了時に実施)			まとめプリントを使用して復習しておくこと			
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回程度実施する。(2)中間試験(筆記)、定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				20%
履修上の注意							

科目名	発達障害作業療法学演習						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	30時間	担当者	藤川 貴子		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	1. 前期に学んだ発達障害の概念と介護体験実習で学んだことを整理する。2. 発達障害分野の各疾患について学ぶ。3. 発達障害分野の各疾患に対する作業療法の知識を学ぶ。4. 対象児者や家族の成長やライフサイクルの変化に対応した関わりについて学ぶ。						
授業形式	講義:	△	演習:	○	実習:		
					実技:	△	
					※ 主たる方法:	○ その他: △	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			人間発達学で学んだ発達過程、発達領域に関する知識を作業療法評価に活用できる。		
	○	○			代表的障害(知的障害、筋ジスト、二分脊椎)について臨床像を説明することができる。		
	○	○			上記障害の治療、指導、援助内容を考えることができる。		
				○	特別支援学校での介護等体験実習に参加し、「児童」「生徒」どの関わりで安全に配慮することができる。		
テキスト・教材 参考図書	作業療法学ゴールド・マスター・テキスト 発達障害作業療法学 改訂第2版、メディカルビュー、2015 参考文献:岩崎 清隆・他、発達障害と作業療法[実践編]、三輪書店、2001 今川 忠男訳、脳性麻痺児の早期治療、医学書院、2003 作業療法学全書 改訂第3版 第6巻「作業治療学3発達障害」、協同医書出版社、2010						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	介護体験実習の振り返り(グループワーク)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	2	介護体験実習の振り返り(まとめ)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	3	知的障害に対する作業療法(知的障害とは・評価)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	4	知的障害に対する作業療法(アプローチの実際)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	5	摂食嚥下障害に対する作業療法(嚥下障害とは・評価)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	6	摂食嚥下障害に対する作業療法(アプローチの実際)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	7	筋ジストロフィーに対する作業療法(筋ジストロフィーとは・評価)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	8	筋ジストロフィーに対する作業療法(アプローチの実際)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	9	ダウン症に対する作業療法(ダウン症とは・評価)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	10	ダウン症に対する作業療法(アプローチの実際)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	11	二分脊椎に対する作業療法(二分脊椎とは・評価・アプローチの実際)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	12	分娩麻痺に対する作業療法(分娩麻痺とは・評価・アプローチの実際)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	13	事例演習(グループワーク)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	14	事例演習(まとめ)				まとめプリントを使用して復習しておくこと	
	15	まとめ					
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				80%
	レポート	○	○		○		20%
履修上の注意	※その他、必要なものについては授業の中で提示します。						

科目名	精神障害作業療法学Ⅱ						
科目名(英)	Psychiatric Occupational TherapyⅡ						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	青山 克実		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	精神障害作業療法の概略と作業療法の実践理論を学習し、精神障害作業療法における評価とその視点を理解する。また、e-learningコンテンツを利用し、事例を通じた作業療法のプロセスとアセスメント、概念化と介入計画までの思考プロセスを体験的に学習する。疾患別作業療法実践について、回復過程に沿って学習する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標(到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	◎	◎			模擬事例を通して、クライアントの評価計画を立てることができる。	
	◎	◎	◎			模擬症例で実施されている構成的評価を学生同士で実施することができる。	
	◎	◎	◎			模擬症例の情報を通して、クライアントの状況をMOHOおよびICFの理論に基づいて概念化できる。	
	◎	◎	◎			模擬症例の作業療法の目標および介入計画を立案できる。	
	◎	◎				疾患別作業療法について、過去の国家試験問題で60%以上の正答ができるようになる。	
テキスト・教材参考図書	オリジナルテキスト(精神科作業療法) 石井良和・他編:クリニカル作業療法シリーズ 精神障害領域の作業療法第2版.中央法規, 2016.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神科作業療法総論				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと	
	2	精神科作業療法のマスタアイテム①『MOHOの基本的概念』演習 精神科作業療法のマスタアイテム②『作業の変化と発達』演習				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと	
	3	作業療法評価とプロセス 作業療法評価演習①e-learning演習:処方～インテーク				インテーク面接について学生同士で模擬的に練習しておくこと	
	4	作業療法評価演習②e-learning演習 作業療法評価演習③e-learning演習				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと	
	5	作業療法介入評価④e-learning演習:作業療法評価(情報収集法) 作業療法評価演習⑤e-learning演習				e-learningコンテンツの事例で実施されている評価について学生同士で再度練習しておくこと	
	6	作業療法評価演習⑥e-learning演習 作業療法評価演習⑦e-learning演習				e-learningコンテンツの事例で実施されている評価について学生同士で再度練習しておくこと	
	7	作業療法評価演習⑧e-learning演習 作業療法評価演習⑨e-learning演習:統合と解釈				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと	
	8	作業療法評価演習⑩e-learning演習 作業療法評価演習⑪e-learning演習				e-learningコンテンツの事例情報に基づいてMOHOおよびICFの理論に沿ってクライアントの状況を概念化しておくこと	
	9	作業療法評価演習⑫e-learning演習:基本方針と介入計画(目標と治療的戦略) 作業療法評価演習⑬e-learning演習				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと	
	10	作業療法評価演習⑭e-learning演習 作業療法評価演習⑮e-learning演習※演習事例レジュメを作成し提出(期限は授業内で指示)				e-learningコンテンツで取り組んだ事例の作業療法計画のレジュメを作成し、提出すること	
	11	中間テスト 疾患別作業療法① 統合失調症(1)				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと。小テストのやり直しを行うこと	
	12	疾患別作業療法① 統合失調症(2) 長期入院と作業療法 疾患別作業療法② 気分障害(うつ状態)				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと。小テストのやり直しを行うこと	
	13	疾患別作業療法② 気分障害(躁状態) 疾患別作業療法③ 神経症性障害				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと。小テストのやり直しを行うこと	
	14	疾患別作業療法④ 人格障害～境界型人格障害～ 疾患別作業療法⑤ アルコール依存症				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと。小テストのやり直しを行うこと	
	15	疾患別作業療法⑥ 摂食障害				振り返りシートを用いて復習する。また、Classiiにて配信された小テストに取り組むこと。小テストのやり直しを行うこと	
評価方法	(1)授業の中で小テストを4回実施する(疾患別作業療法)。 (2)中間試験(筆記)、定期試験(筆記)を実施する(以下、履修上の注意を参照)。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○				90%
	小テスト	◎	◎				10%
履修上の注意	e-learningコンテンツ課題については、進捗状況に応じて課外でもグループで取り組むこと。 (1)定期試験として、中間テストおよび定期試験と合わせて2回実施する。成績は2回の試験の平均とする。中間試験で60点未満の学生は再試験を実施し、再試験にて60点以上の場合、60点として処理する。再試験でも60点未満の場合は、中間試験の点数を優先して処理する。						

科目名	老年期障害作業療法学						
科目名(英)	OT for Aging Adults						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	早川 由加里		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	日本の急速な高齢化に対応する為、この科目では高齢者の特徴や使用出来る制度、評価やリハビリテーションについて学ぶ。高齢者とそれを取り巻く環境・これから必要となることについて知り、臨床現場での評価実践やコミュニケーションを通して、自身に不足しているもの見出す機会も持つ。						
授業形式	講義:	○	演習:	○	実習:	○	
					実技:	○	
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			日本の高齢化の歩みと、社会制度について学び、それを記述することが出来る。		
	○	○			高齢者の“老い”・“変化”についての特徴を10個以上列挙出来る。		
	○	○	○	○	老年期リハビリテーション・評価について説明が出来、実際の臨床現場にて実践することが出来る。		
	○	○	○	○	講義・班活動・実習を通し、対象者や自分自身のことについて理解を深める・課題を見出すことが出来る。		
テキスト・教材 参考図書	1)小川敬之、竹田徳則 編:認知症の作業療法 ソーシャルインクルージョンをめざして 参考文献:1)松房利徳、新井健五 編:標準作業療法学 専門分野 高齢期作業療法学 第3版. 医学書院.2016. 2)宮口英樹 監修:認知症を持つ人へのアプローチ-視点・プロセス・理論- . メディカルビュー社.2014. 3)藪脇健司 編:高齢者のその人らしさを捉える作業療法. 文光堂.2015.						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション／コミュニケーション実習				学外実習。 事前に高齢者の特徴について調べてくる	
	2	コミュニケーション実習／高齢社会の背景と現代社会、リハビリ、心身機能と評価				学外実習。 話す話題について事前学習を行ってくる	
	3	認知症の作業療法①:認知症サポーター養成講座				主に対応、急増する認知症について事前学習を行う。	
	4	認知症の作業療法②:概論				認知症について事前学習	
	5	認知症の作業療法③:評価				認知症の評価について事前学習	
	6	認知症の作業療法④:リハビリテーション				認知症のリハビリテーションについて事前学習	
	7	認知症の作業療法⑤:アプローチ				認知症へのアプローチについて事前学習	
	8	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律①				学外実習・発表。再度コミュニケーションの取り方や話題について事前学習	
	9	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律②				学外実習・発表。認知症の機能評価を実践する為、実施や説明の行い方について事前学習	
	10	施設見学(評価)実習／高齢者保健福祉に関する制度・法律／発表③				学外実習・発表。各テーマのプレゼンテーションを行う為、事前準備	
	11	現場のOTによる講義				実習や講義を通して学んだことを整理し、講義に臨む	
	12	現場のOTによる講義				実習や講義を通して学んだことを整理し、講義に臨む	
	13	高齢者体験実習／症例検討				実習。高齢者の気持ちや各種動作など身体的なことについて事前学習	
	14	高齢者体験実習／症例検討、講義のまとめ				全講義について重要な部分を確認しておく	
15	まとめ						
評価方法	(1)授業の中で小テストを実施する。(2)レポートを実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)		○				80%
	小テスト	○	○				10%
	実習レポート	○	○				10%
履修上の注意	■その他の参考文献等は、授業内資料でその都度提示する。 □場合により、講義内容の変更・順番の変更等を行う。						

科目名	装具学						
科目名(英)	Orthotics						
単位数	2	時間数	30時間	担当者	野村 和代		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	1・装具の目的と給付体系、装具療法における作業療法士の役割を理解する。 2・各種装具の装着目的及び目的達成のために配慮された形態的特徴を知る。 3・疾患に対する装具の役割および装具のチェックアウトの要点を学ぶ。 4・装具製作実習を通し、基本技術を習得し、装具の構造に対する理解を深める。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	目標		
	○	○			装具療法における作業療法士の役割とを理解し説明できる		
	○	○			装具の給付体系を説明できる		
	○	○			各種装具の部品、形態的特徴、目的を理解し説明できる		
	○	○			疾患に対しての装具の適応を理解し説明できる		
○	○		○	装具のチェックアウトと基本的な上肢装具の製作ができる			
テキスト・教材 参考図書	1)古川 宏 編:作業療法学全書第9巻 義肢装具学第3版. 協同医学出版社,2009. 参考文献:1)日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会監修:義肢装具のチェックポイント第7版. 医学書院,2008. 2)加倉井 周一 編:装具学第4版. 医歯薬出版社,2009. 3)坪田 貞子 編:動画でわかる熱可塑性スプリント作成マニュアル. 三輪書店,2012. 4)細田 多穂 監修:義肢装具学テキスト. 南江堂,2013.						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	装具総論 / 体幹装具			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	2	下肢装具			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	3	下肢装具			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	4	上肢装具総論			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	5	肩装具・肘装具			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	6	手・指装具			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	7	対立装具・把持装具			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	8	疾患別適応(CVA/SCI/RA)			装具を理解するために必要な解剖・運動学の内容を復習。講義資料の復習。		
	9	疾患別適応(熱傷/末梢神経損傷/その他)			疾患別装具理解に必要な身体障害に関する内容を確認。講義資料の復習。		
	10	小テスト/装具製作実習説明			国家試験問題の振り返りと装具製作に必要な物品の準備。		
	11	装具製作実習(指装具と短対立装具)			製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。		
	12	装具製作実習(指装具と短対立装具)			製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。		
	13	装具製作実習(掌側カックアップ装具)			製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。		
	14	装具製作実習(掌側カックアップ装具)			製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。		
15	装具製作実習(掌側カックアップ装具)			製作する装具の要点を復習。装具製作に必要な解剖・運動学の内容を復習。			
評価方法	(1)授業の中で小テストを1回実施する。(2)製作実習を実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				80%
	小テスト	◎	◎				10%
	製作課題	◎	◎		◎		10%
履修上の注意							

科目名	ADL支援学						
科目名(英)	Activities of Daily Living ; Practice						
単位数	2	時間数	60時間	担当者	野村 和代 安部 剛敏		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	1. 福祉用具の概念を学び、その給付体系を知る。2. 福祉用具に関する作業療法士の役割を理解する。 3. 福祉用具の適応とADLを関連付けて理解する。4. 基本動作の指導および援助を実践することができる。 5. 客観的臨床能力試験(OSCE)を用いてADLの介入技能を理解することができる						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				福祉用具の概念を学び、その給付体系を理解することができる	
	○	○				福祉用具に関する作業療法士の役割を理解することができる	
	○	○				福祉用具の適応とADLを関連付けて理解することができる	
	○	○	○			基本動作の指導および援助をすることができる	
○	○	○			OSCEを用いてADLの介入技能を理解できる		
テキスト・教材 参考図書	1)長崎 重信 監修:作業療法ゴールドマスターテキスト 福祉用具学、メジカルビュー、2015。2)市川 冽 他:福祉用具支援論、テクノイド協会、2008。3)藤井 浩美:日常性活動の作業療法 中央法規 参考文献: 1)テクノイド協会:住宅改修ハンドブック 自立支援のための住宅改修事例集、テクノイド協会2008。2)テクノイド協会:福祉用具を上手に利用するためのQ&A、テクノイド協会2008。3)木之瀬 隆 編集:作業療法学全書第10巻 作業療法技術学2 福祉用具の使い方・住環境整備 第2版、協同医書出版社2009。4)中村 恵子:もっとらくらく動作介助マニュアル、医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	福祉用具概論 福祉用具供給システム 治療に関する機器(各種作業台、筋力増強・筋持久力改善に用いる機器)			制度に関する知識の整理と配布資料の整理と復習		
	2	治療に関する機器(巧緻性改善に用いる機器/発達領域で用いる機器/ ベッド周辺機器と移乗補助用具)			配布資料の整理と復習		
	3	生活に関する機器(排泄関連用具/入浴関連用具) 自助具(自助具導入の流れ)			配布資料の整理と復習		
	4	自助具(レポート)			自助具について疾患別レポート提出/配布資料の整理と復習		
	5	環境制御装置・意思伝達装置・スイッチの工夫			配布資料の整理と復習		
	6	住宅改修(住宅の役割と住宅改修の必要性/ 基本的な改修項目と実例)			配布資料の整理と復習/見学に向けて授業内容の振り返り		
	7	福祉機器展示場見学(レポート)			福祉機器展示場見学レポート提出		
	8	寝返りおよび起き上がり動作の指導と援助			振り返りシートで学習してください。		
	9	OSCE(起き上がり)			振り返りシートで学習してください。 指定動画を事前に確認ください。		
	10	起立・着座動作の指導と援助			振り返りシートで学習してください		
	11	OSCE(起立・着座)			振り返りシートで学習してください。 指定動画を事前に確認ください。		
	12	ケーススタディ(脳血管障害における排泄動作)			振り返りシートで学習してください。		
	13	ケーススタディ(脳血管障害における食事動作)			振り返りシートで学習してください。		
	14	ケーススタディ(大腿骨頸部骨折における排泄動作)			振り返りシートで学習してください。		
15	まとめ						
評価方法	(1)レポートを数回実施する 60%(自助具レポート15%、設計書と自助具作品20%、見学レポート15%、宿題レポート10%)。 (2)定期試験(筆記)を実施する 40%。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				40%
	宿題・レポート	◎	◎				60%
履修上の注意							

科目名	地域作業療法学						
科目名(英)	Community Based Occupational Therapy						
単位数	4	時間数	60時間	担当者	井本理美(身障・老人) 小野仁(発達障害) 青山克実(精神障害)		
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○		
対象学科・学年	作業療法学科 2年						
授業概要	地域作業療法の理念と役割を理解するとともに、身体障害領域および介護保険領域、発達領域、精神領域における地域作業療法の知識基盤および実践的方法論を理解する。また、日本作業療法士協会が開発した生活行為向上マネジメントの基礎的な知識と実際の評価、マネジメントの方法について理解する。各領域での実践例についても直接触れ、その実践を理解する。						
授業形式	講義: △	演習: ○	実習:	実技: △	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他		
	◎	◎			目標		
	◎	○			地域作業療法の理念と役割を説明することができる。		
	○	○			各領域の地域生活における生活障害の特徴を例を挙げて説明することができる。		
	○	○			学生を相手に生活行為向上マネジメントを模擬的に実施し、介入プランを立案することができる。		
○	○			模擬症例を通して、地域生活におけるケアプランおよび作業療法プランを立案することができる。			
テキスト・教材 参考図書	1)福岡県社会福祉協議会編:障害者福祉情報ハンドブック2018 2)寺山 久美子編:作業療法学全書別巻 地域作業療法学 協同医書出版社 3)香山明美他編:精神障害作業療法-急性期から地域実践まで 医歯薬出版 参考文献:1)精神障害の急性期作業療法と退院促進プログラム(日本作業療法士協会)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	身障・老人	地域リハビリテーション・地域作業療法概論			講義資料を通して復習しておくこと	
	2		社会資源について(介護保険制度、その他保健福祉サービス)			講義資料を通して復習しておくこと	
	3		ケアマネジメントについて(アセスメントからケアプラン立案までの流れ)			講義資料を通して復習しておくこと	
	4		地域作業療法の実際(作業療法士の活動内容)			講義資料を通して復習しておくこと	
	5		地域作業療法の実際(生活行為向上マネジメントについて)			講義資料を通して復習しておくこと	
	6	発達	地域作業療法の理念と役割、知識基盤			講義資料を通して復習しておくこと	
	7		知識基盤、発達障害児(者)と社会資源			講義資料を通して復習しておくこと	
	8		発達障害児(者)のケアマネジメント、在宅障害児(者)の評価・治療および生活支援			講義資料を通して復習しておくこと	
	9		事例紹介、環境整備・福祉用具			講義資料を通して復習しておくこと	
	10		事例演習			講義資料を通して復習しておくこと	
	11	精神	精神保健福祉の現状と課題 精神障害領域における地域作業療法と評価			振り返りシートを通して復習をする	
	12		日本作業療法士協会退院促進プログラムとアセスメント 精神障害者に対する地域生活移行・定着支援			振り返りシートを通して復習をする	
	13		地域作業療法のプロセスと評価 ～MTDLPを通して～			振り返りシートを通して復習をする	
	14		事例演習			実際に経験したアセスメントを再度体験しておく	
15	地域作業療法の実際(外部講師)			実際の実践に触れての感想を書く			
		まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 定期試験は、各領域30点で合計90点満点で実施し、素点を100点満点換算し処理する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	職業関連活動									
科目名(英)	Pre-Vocational Occupational Therapy									
単位数	2	時間数	30時間	担当者	渡辺みゆき					
実施年度	2019年度	実施時期	後期	実務家教員 担当科目	○					
対象学科・学年	作業療法学科 2年									
授業概要	障害の有無は関係なく、職業・働くことの意味について考えながら、現在の日本での障害雇用や就労形態、それを支える法制度や支援について学ぶ。また、現在のOTが抱える課題や対応について考え、働くこと・就労支援についての理解を深める。									
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○	その他:△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				人にとっての働くことの意味・障害のある人にとっての職業の意義を理解し、それぞれについて自分の観点から説明することが出来る。				
	○	○				職業リハビリテーションの定義、法制度、援助機関について主となるものを説明することが出来る。				
	○	○				障害者雇用の現状、就労形態、各種の援助サービスについて各3つずつは説明することが出来る。				
	○	○				OTの就労支援の現状を知り、今後の課題について具体的に最低3つはあげる事が出来る。				
○	○		○		障害者の就労支援について関心を持ち、自ら調べ・発表に活かすことが出来る。					
テキスト・教材 参考図書	1. 福岡県社会福祉協議会 編:福岡県障害者福祉情報ハンドブック2018. 2. 日本作業療法士協会 編:作業療法マニュアル60 知的障害は発達障害のある人への就労支援2016. 3. 配付資料 参考文献:・日本作業療法士協会 編:職業関連活動(作業療法学全書第12巻)改訂第3版. 協同医学出版社.2009. その他の参考となる文献および情報源は授業で紹介する。									
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示				
	1	オリエンテーション、職業について考える				職業について事前に考えてくる				
	2	働くことの意味について考える				働くことの意味について自分なりの意見を考えてくる				
	3	職業の定義、意義、分類、職業選択、職業的発達				教科書にて事前学習する				
	4	職業適性検査 ①職業興味検査 ②厚労省編職業適性検査				検査の概要について調べてくる				
	5	職業適性検査結果のまとめ、職業適性				検査を実施してのまとめを行う				
	6	障害者の定義、業の意義、就労形態				障がい者の就労について事前学習を行う				
	7	障害者雇用の現状、職業リハビリテーションの歴史・定義				知っている障がい者雇用施設について調べてくる				
	8	職業リハビリテーションの援助機関、各種援助、制度、職業生活継続の重要性				リハビリテーションとしての援助や制度について予習する				
	9	職業リハビリテーションとOT:OTの役割、目的、就労リハゴール、評価①				Oとしての就労支援について考えてくる				
	10	就労支援の実際(1)福祉的就労施設における就労支援				福祉的就労支援について予習をしてくる				
	11	就労支援の実際(2)発達障害分野における就労支援				発達障害分野における就労支援について予習する				
	12	就労支援の実際(3)精神障害分野における就労支援				精神障害分野の就労支援について予習する				
	13	就労支援の実際(4)身体障害分野における就労支援、職リハとOT:評価②				身体障害分野の就労支援について予習する				
	14	課題発表				課題発表の準備を行う				
15	まとめ									
評価方法	(1)発表・レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験(筆記)	○					80%			
	レポート	○					10%			
	発表	○			○		10%			
履修上の注意	講義は配付資料を基に進めます。その他、グループワーク、映像による紹介なども取り入れます。個人学習としてのレポート課題を課します。(授業開始時に説明します)									